

「2Rで倒すイメージは、できて
いるんですよ」

試合の前日に行われた計量の席
で、佐久間晋哉が静かに語る。フ
アブリス・アリュージュ戦のシユ
ミレートは、完璧にできているよ
うだ。

「外国人だからといって、何も気
にしないし、肩書きも意識してな
いんです。ただ、ガンガンくる選手
だから、下がったら負けるでしょ
うね」と淡々と言葉を続けた。

このクールさは、一部の熱狂的
な佐久間信者の大コールを受けて
も、リング上でアリュージュと対
峙しても、変わりはない。

しかし、1R中盤、アリュージュ
の放ったバックブローで、佐久
間がダウン。思わぬ展開に、佐久
間が目の色を変えて反撃を試みた
（ヤバイ。今まで、自分の闘志を
押さえつけていた分、一気に我を
忘れてしまうのでは）

いやな予感があったが、それは一
瞬のことではなかった。すぐに
落ちついて、まずは距離を作る。
彼は、我々が考えているよりも、
本当に冷静に闘っていたようだ。

試合後に判明したことだが、2
RでKOする予定だったヒザ攻撃
も、小柄なアリュージュでは的が
小さいと、すぐにパンチ主体の攻
撃に切り換えたというのだ。

ずっと練習してきた対策方法を
一瞬にして切り換えるとは、ク
ールさ以上に、大した度胸でもある。
結局、2R以降はダウンを2度
奪い、佐久間は一方的な展開で勝
利を手にした。

大喜びする佐久間マニアをよそ
に、意外にも本人は険しい表情だ。
「ホントは倒せたのに……」
そういえば、アリュージュが打
ち合いを挑むと、スツと距離を取

る彼の姿が試合で見られた。

断っておくが、安全策で闘うの
は悪いことではない。けれども、
彼が言うように「今年は佐久間中
心のキック界」を構築したいのな
ら、話は別だ。

つとめてクールに闘っている佐
久間だが、それは過剰な闘志で冷
静さを失いたくないがために、そ
のように装っているに違いない。
だからこそ、もう少し熱く、リ
スクを冒しても倒しにいって、佐久間
の姿を求めたい。

冷静かつ、大胆なファイトを。
そうならば、自然と98年は佐久間
の年になるだろう。
(高島)



●セミ・ファイナル／日仏国際戦 127ポンド契約3分5R(第8試合)
○佐久間晋哉 (ハマキF.S.G.所属、17歳、57・2、26歳)
(5R判定3-10) 勝点6-4、44-44、44-44
●ファブリス・アリュージュ (フランス、57歳、31歳)
(元WBA世界スーパーバンタム級王者)
○佐久間は1R、右バックブローでアリュージュは2Rにパンチで倒れ、
5Rにも左ストレートで倒れられダウン。休養日毎日計量の数分。
○「ホントは、倒せましたよね、まあホツとしています。次は、絶対にKOし
ます」。判定勝利に不満な佐久間晋哉は、今後闘ってみたい相手に、ルンビニ
ー・フェザー級王者ラムナムムン・ソニー・スマワリーの名を挙げた。

2RでKOするはずが、1Rにダウンを喫した 思惑通りにいかなかったも クールな佐久間は慌てず、焦らず

自分中心のキック界へ 冷静かつ 大胆に!



○WKA世界スーパーバンタム級王者の肩書きを持つア
リュージュは、前日の計量が400lbオーバー。2週間前に親友
(かつてジェイソン信長と闘ったボウガウ・レッドガン)
を亡くし、ショックか響いてしまったそうだが、アグレッシ
ブなファイトは好感が持たれた。再来日に期待したい。
○この日、97年度のファン投票年間表彰式が行われ、佐久
間はMVPとベストバウト賞(3・23 VS立嶋)を受賞した。
「終わったことですから、まあ、ファン投票というのは嬉しい
んですけど」と佐久間はここでもクールな反応を示した。

○1Rにダウンを喫した佐久間だったが、
すぐにリーチの差を生かして、反撃を開始。
ミドルパンチの連打で、2Rと最
終5Rにダウンを奪い返す。